

昭和七年竣工以降

北石組合資材部竣工

共同石炭
I
2





北石卷第一一九六七號

昭和十八年九月二日

附度譯中

英國海軍

北九州石灰泥組台資材誌

本年度農務計、當國牧實地ニ赴リテハ地方事務調査又ハ市町村計ヨリ觀ニ稻繁
相摩及養蠶ニ付之ガ條出地均ニ付テハ殆々趨勢致シ居ル事ト存疑
就テハ陶牧收地中養蠶ニ在食ヲ必要トスルモノハ概算單圖手續ハ輪民區查
査並臨田區面官局下ノ屬ニ左記ノ通り取遇メ相應懷懷疑了承ノ上同政
府ノ存置ヲ必要トスル向ハ推定範圍銘實部必着ニテ申請書提出和成後
向右手續以外ノ一切ニ付テハ直該地方事務所又ハ市町村ノ指示ニ依リ

市町村相成此致函通知也

出版部

152

營部（兼出師正副四連）

正一八、現會ニ於テ内ニ檢給ノ上縣當局へ提出ス

高 一 宮部
高 一 文部

二、地方學務所又（町町村）發出分

（此分區發掘出ノコト）

說就與共大題作臣

提出問題

九月十四日必着

期日遵守、國公合ハサル分ハ制限ニ

金屬回收物件保存申請書

昭和十八年九月 日

住 所

所有者

印

新潟縣知事 吉田 茂 殿

金屬回收物件保存申請書

石炭統御官臨時本部理由課金屬課長 殿

一 回收物件ノ名稱	数量	
	指定量	量
二 回收物件ノ材料タル 金屬品ノ種類		
三 回收物件ノ所在地		
四 回收物件ノ用途		
五 保存セント スル理由		

◎ 注意

一 回收物件一品毎ニ必ず別紙作成ノコト

二 保存セントスル理由ハ具体的に且ツ可成詳細記入ノコト

27
新設

新設
貯炭箱（××）題（用保粉箱當見免證明顯）

共銅石炭礦
榮株式會社
局
題
銀
新



鐵鋼材剩當見込證明書

鐵鋼工作物製造許可申請書ニ添付スベキ左記鐵鋼材ハ當方ニ貯シ剩當見込アルコトヲ御證明相成度此後及御願候也

昭和十八年十二月十五日

福岡縣田川郡周峰町

共同石炭鐵鋼株式會社

島 謝 鐵 鋼 部

鐵鋼代理人 松 下



石炭統制會 御 申

記

マ事 業 ノ 種 類 石 炭 礦 業

マ工 作 物 ノ 位 置 福岡縣田川郡周峰町島謝(田川線第一大佐貨物引込線)

マ工 作 物 ノ 用 途 並ニ規模

本工工作物ハ當鐵鋼所ノ増産並ニ新統開發ニ依ル出炭増加ニ鑑ミ石炭鐵鋼ノ圓滑ヲ計ル目的ヲ以テ昭和十七年九月間鐵鋼ニ之ガ製造ニ關シ田原中ノモノ有之、同時ニ資材ノ入手ニ努力中ナルモ今ダ一部ノ資材不足ノ爲メ着手不可能ノ狀態ニ有之候處昭和十八年十一月十二日付編號一八號第一八二五號ニ依ル指令ヲ受ケ候

但シ本建造ハ急遽ナル完成期日ヲ條件ト致シ履行候モ左記鋼材不足ニツキ特別ノ御裁議ヲ以テ資材剩當相成度此ノ段及奉願候也

マ所要鋼材總數量

四四萬〇一四

マ不足 數量

二七萬七二〇(類似寸法ノ場合四五萬二二〇)

内 一 冊

清 澁 銅 九 耗 × 一 五 〇 耗 × 七 五 耗 一 〇 二 九 米 二 〇 五 五 八 〇
文 部 似 寸 法 九 耗 × 二 五 〇 耗 × 九 〇 耗 一 〇 二 九 米 三 五 五 六 〇 〇

銅 板 四、五 耗 × 四 庚 × 八 庚 六 八 枚 七 五 一 四 〇
※ 却 似 寸 法 六、〇 耗 × 四 庚 × 八 庚 六 八 枚 九 五 五 二 〇

手 持 發 注 中 一 〇 枚 三 七 枚

「右不足意書割當見込期 昭和 年 第 期

右 証 明 ス

昭和十八年十二月 日

手持鐵鋼材使用承認願

鐵鋼工作物製造許可申請書ニ添付スベキ左記鐵鋼材へ申請者手持品ヲ以て補充スルモノナルコトヲ御承認相成度此之段及御願候也

福岡縣田川郡川崎町

共同石炭礦 株式會社 局 總 鐵 業 所

鐵業代理人 松 下

明
証
印

石炭統制會 御 中

記

一、事業ノ種類

一、工作物ノ位置

一、工作物ノ用途並ニ規模

本工作物ハ石炭貨車積込用石炭槽(五五五入リ)十二個對六六〇センチ同槽ノ積込ニハ現在ノ積込機積込併行ノ金高九米幅員七・〇米延長二五・六〇〇米ノ棧橋ヲ新設シ、假、貳、參號ノ換炭機並ニ水洗機ニヨリ積込機爲シタル石炭ヲエンドレスニ依リ之ヲ運搬シ同槽ニ貯ヘ貨車積込ヲ遂行スル爲メ目付のトシ同槽ヲ建造許與スルモノナリ

一、換炭鋼材總數量

一、手持數量

一、發注中ノ數量

四四五〇一四

五五五五六五

一二五五七九

計 一七五五六四四

右 承 認 ス

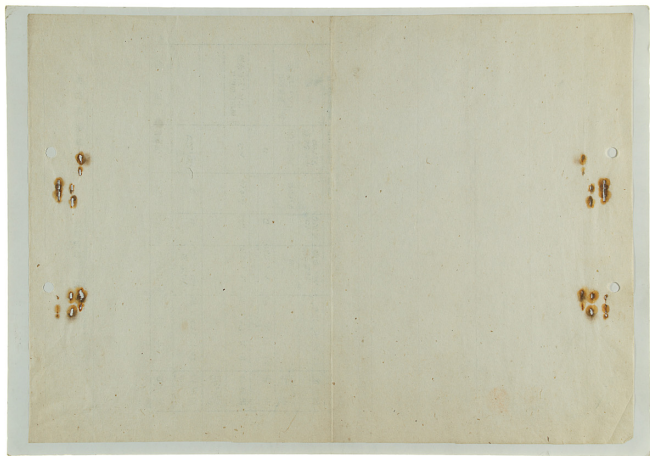
昭和十八年十二月

日

附錄一 用鐵鋼材明細表

島嶼建築所

料 目	寸 法	所需全量	手持數量	發注數量	不足數量	備 考
清 鋼	9" × 150 × 75	1029 米 20 池 380	0	0	應 20,380	
全 上 部似寸法	9" × 250 × 90				35,600	
曲 鋼	9 × 75 × 75	3,540	722	2,818	122	發注數量期日 十八,三四半期
平 鋼	12 × 75	1,034	0		0	
全 上 部似寸法	9 × 75	0		1,034	上記二代用	發注數量期日 十八,三四期
鋼 板	45 × 4" × 8"	115 枚 12,020	10 枚 1,050		不足 68 枚 7,140	
全 上 部似寸法	6.0 × 4 × 8	0	0	37 枚 5,180	上記二代用 68 枚 7,320	發注數量期日 十八,三四期
"	12 × 4 × 8	280	280		0	
"	9 × 4 × 8	1,260	1,260		0	
丸 鋼	32	1,150	303	847	0	發注數量期日 十八,二四期
"	26	1,550	1,550		0	
"	16	1,000	0	1,000	0	發注數量期日 十八,三四期
"	16	1,600	0	1,600	0	全上及 十八,二四期
許		44,014	5,165	12,479	27,720	
此 部似寸法					45,120	





新設
貯炭槽 (200 噸) 用鋼材附當見公證明顯

共同石炭鐵
業株式會社
島根鐵業所

鐵鋼材明當見込證明書

鐵鋼工作物製造許可申請書ニ添付スベキ左記鐵鋼材ハ當方ニ對シ割當見込アルコトヲ御證明相成度此段及御願候也

昭和十八年十二月十五日

福岡縣田川郡川崎町

其内石炭礦 品 類 鐵 鋼 業 所

資株式會社

鐵鋼業代理人

松 下

明

石炭稅割當 初 中

記

「事業ノ種類」 石 炭 礦 業

「工作物ノ位置」 福岡縣田川郡川崎町品類一田川鐵鋼一大任貨物引込鐵鋼

「工作物ノ用途及規模」 石炭礦品類

本工作物ハ當鐵鋼業所ノ增產並ニ新坑開發ニ依ル出炭増産ニ際ミ石炭輸送ノ圓滑ヲ計ル目的ヲ以テ昭和十七年九月門鐵局ニ之ガ築造ニ關シ出願中ノモノ有之、同時ニ資材ノ入手ニ努力中ナルモ今ダ一部ノ資材不足ノ爲メ着手不可能ノ狀態ニ有之候處昭和十八年十一月十二日付鐵鋼一八地第一八二五號ニ依ル指令ヲ受ケ候

但シ本建築ハ急遽ナル完成期日ヲ條件ト致シ居リ候モ左記鋼材不足ニツキ特別ノ御詮議ヲ以テ資材割當相成度此ノ段及奉願候也

「所要鋼材總數量」 四四噸〇一四

「不足數量」 二七噸七二〇（類似寸法ノ場合四五噸二一〇）

内 部

溝蓋 九耗×一五〇耗×七五耗
類似寸法 九耗×二五〇耗×九〇耗

一〇一九米 二〇四五八〇
一〇一九米 三五八六〇〇

銅板 四、五耗×四八呎×八呎

六八枚 七四一四〇

六、〇耗×四呎×八呎

六八枚 九四五二〇

手持

一〇枚

發注中

三七枚

「右不足數量附當見込期 昭和

平 庫 期

右 證 明 ス

昭和十八年十二月 日

手持鐵鋼材使用承認書

鐵鋼工作物製造許可申請書ニ添付スベキ左記鐵鋼材ハ申請者手持品ヲ
以て充當スルモノナルコトヲ御承認相成度此ノ段及御願候也

福岡縣田川郡川崎町

共同石炭積
業株式會社
總代理 人 松 下 明



石炭株式會社 御中

記

「事業ノ種類

「工作物ノ位置

「工作物ノ用途及ニ規模

本工作物ハ石炭貨車積込用石炭槽(五五聯入り)十二區六六〇噸ニシ
テ同槽ノ積込ニハ現在ノ積込機橋ト併行ノ全高九米幅員七、〇米延長
二五、六〇〇米ノ橋橋ヲ新設シ、壹、貳、叁處ノ新炭機並ニ水洗機ニ
ヨリ槽橋爲シタル石炭ラエンドレスニ依リ^{之ヲ}運搬シ同槽ニ貯ヘ貨車積込
ヲ速急ニ爲スヲ目的トシ同槽ヲ建造貯炭スルモノナリ

「所要鋼材總數量

「手持數量

「發注中ノ數量

田川縣〇一區

五區一六五

一二區四七九

計 一七區六四四

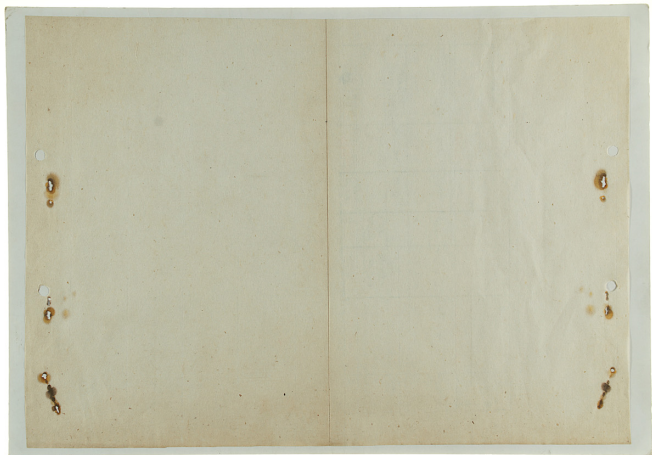
右 承 認 ス

昭和十八年十二月 日

貯炭桶用鐵鋼材明細表

島 嶼 鐵 業 所

科 目	寸 法	貯 炭 全 量	手持數量	發注數量	不足數量	備 考
溝 型 鋼	90 X 150 X 75	1029 米 20 箱 580	0	0	0 20580	
全 上 鋼 似 寸 法	90 X 230 X 90				35600	
山 型 鋼	9 X 75 X 75	3, 540	722	2818	122	發注數量期日 十八, 三四半期
平 鋼	12 X 75	1, 034	0		0	
全 上 鋼 似 寸 法	9 X 75	0		1034	上此二代用	發注數量期日 十八, 三四期
鋼 板	45 X 4' X 8'	115 枚 12, 020	10枚 1050		不足68枚 7140	
全 上 鋼 似 寸 法	60 X 4 X 8	0	0	37枚 5, 180	上此二代用 6240 9520	發注數量期日 十八, 三四期
"	12 X 4 X 8	280	280		0	
"	9 X 4 X 8	1,260	1,260		0	
丸 鋼	3.2	1,150	303	847	0	發注數量期日 十八, 二四期
"	2.6	1,550	1,550		0	
"	1.6	1,000	0	1,000	0	發注數量期日 十八, 三四期
"	1.6	1,600	0	1,600	0	全上及 十八, 二四期
計		44014	5165	12477	27,120	
貯 鋼 似 寸 法					45,120	



福岡県田川郡川崎町大字川崎

共同右炭礦
業株式會社
總
經
理
所

北方石油集團
資材部
中

與醫藥業者用於食品所需要之調查ノ件（回答）

昭和十八年十一月廿二日附北石資發第七三四號ヲ以テ御座會有之候
首題ノ件左記ノ通り及報告候也

國茶碗 一〇六個、湯呑一三八個、煎茶碗一七個

計 旦 二 六 四 陸 國 皇

士 熱 一 個、魚 類 一 個

一〇三號、三基井一六〇個、淺型井六四個、蘆村井八八個

洋岸三〇個

市井のふりて調査せしむ

町崎川郡川國縣國經

坑 炭 廻 廊

社會建設

(審八編四送書)

光緒二十五年正月二十八

龍岩縣內即月諸山古石月將
勾廻分業行

光緒二十五年正月二十八

光緒二十五年正月二十八

光緒二十五年正月二十八

記

銀花梳 共二六個 湯冬一三八七個 皿一〇七七個 煎茶梳 七個

浮皿 內型二大五枚 蓮月型二三枚

土瓶 三二個、忌飯三五個

計井 一〇三三而區雙井一大。相、我型井大四個、蓋井 九個、

浮井 三一個



世帯員 承認申請書

[illegible]

右及申請候也

昭和 年 月 日

被保險者住所
氏名印

殿

度



島嶼版第 25

昭和十八年九月 10 日

福岡縣田川郡川崎町

北九州石炭統制組合

島嶼版所配給所



北九州石炭統制組合食料部 和中

全黨許可令ニ依ル販賣品目調査報告

北石炭發第 三 四 二 號ニ依ル督促ノ件別紙ノ趣報告候也

福岡縣田川郡川崎町

島嶼版 炭 坑
(昭和十八年九月)



總。婦人子供低成服。男子既成服。履物。傘。衛生材料。
味噌及醬油。食酢。鹽干魚介類。ソース及ケチャップ。
砂糖。菓子及パン。佃煮。罐頭。漬物。豆類。海苔。
乾物。清冷飲料及嗜好飲料。茶。金物。荒物。竹材。
和洋紙。紙製品。文房具。化粧品及齒粉。ゴム製品。
マツチ。バンド。燭燭燭。

昭和六年四月五日發行

坑炭廻島

(第八回調査)

北石發第一二四四號

昭和十八年八月二十三日

北九州石炭礦閉込會資材部

用度課部中

段

課

中

北九州石炭礦閉込會資材部
昭和十八年八月二十三日
北九州石炭礦閉込會資材部



昭和十八年八月二十三日北九州石炭礦閉込會資材部

發給ノ件ニツキ石炭礦閉込會資材部ヨリ別紙起リセメント製品南炭食料部
發提出方起除有之發給起注意御熟慮ノ上三四半期四半期各一起送一
通ヲ來ル九月一日迄當該會宛必着ナス取柄提出相成候

記載注意

一、第三四半期ト四半期ヲ必ず別業トスル等

一、所要セメント或ハ南炭食料ニ關スルモノヲ記載ノコト

資經第三〇四號

昭和十八年八月

同文、各會員
屬、各支部、出張所、各炭礦（會員
經由）

石炭統制會資材部



昭和十八年度下半期セメント製品需要調査ニ關スル件

拜啓 標記ノ件ニ關シ貴所標炭礦分需要量ニ付第三、第四、四半期別御
調査ノ上別紙様式ニヨリ來ル八月二十八日迄ニ御報告相成度右資料ハ當
方ヨリ八月二十九日迄ニ商工省ヘ一括提出ノ要有之様付期日遵守被下度
此段御依頼迄得貴意候

追而右需要數量ニ要スルセメントニ付テハ當該各期炭礦別需要數量ヨ
リ索引タコト、相成層候ニ付御承知アリタシ

敬具

又拜

昭和十八年第三・四半期セメント製品需要調査表

(四半期別)

社名

北国セメント株式会社

支店名

北国支店

製 品 名	単 位	需 要 量	所用セメント量(概)	
			単 位	セメント量
高層コンクリート管	部			0.30
高層コンクリート柱及枕	部			0.20
厚リスレート	千坪			6.00
セメント瓦	千坪			2.00
木毛セメント板	千枚			4.7
石綿スレート	千坪	2,600 坪		3.60
石綿高圧管	部			0.10
石棉燧突	千本	2,600 本		6.30
硬質石棉板	部			0.20

1700

昭和十八年第三、四半期セメント製造需要調査表

(四半期別)

社名 共同石灰工業株式会社

炭田名 島根県豊後

製 品 名	單 位	需 要 量	所要セメント量(噸)	
			原 位	セメント量
高壓コンクリート管	區		0.30	
高壓コンクリート柱及カ	區		0.20	
厚型スレート	千 坪		600	
セメント瓦	千 坪		400	
木毛セメント板	千 枚		47	
石棉スレート	千 坪	六尺マノ 300坪	360	
石棉高壓管	區		0.90	
石棉瓦	千 本	六尺マノ 300本	650	
硬質石棉板	區		0.0	

昭和十八年第四、四半期セメント製品消費調査表

(四半期別)

社名 共同石灰工業株式会社

製品名 島根県産

製 品 名	單 位	需 要 量	所産セメント量(噸)	
			單 位	セメント量
高壓コンクリート管	題		0.30	
高壓コンクリート柱及桁	題		0.20	
厚型スレート	千 坪		60.0	
セメント瓦	千 坪		40.0	
木造セメント板	千 枚		47	
石棉スレート	千 坪	六尺 $\times$ ノ 300坪	56.0	
石棉高壓管	題		0.90	
石棉短夾	千 本	六尺 $\times$ ノ 300本	6.50	
硬質石棉板	題		0.0	



島根県
産



北石炭部第一二二號
昭和十八年八月三日

准許證第

農 園 部 中

北九州石炭部組合資料部

請方ナシ



自家用自動車ニ關スル關税ノ件
標記ノ件ニ關シテハ縣保安課ノ要領ニ有之候條則紙樣式一號二號ニ
リ同至仕渡候條索ル八月拾日迄ニ當組合必増候條別紙樣式ニ依リ記入
ノ上送附相成度
追記樣式一號二號ハ今後毎月五日迄ニ當樣式ニヨリ總合宛提出相成度
右ハ燈塔船給ニ關スル資料ト相成ルモノニ付相違ナク提出相成度
今後自動車購入等ノ節ハ樣式二號及一號別提出相成度中古車購入ノ
節ハ該購入迄ヲ併セ總合相成度
樣式一號照樣填寫ニハ休車或ハ該部中ト記入ノ二休車中ノモノハ其
ノ理由ヲ記入ノコト部分品等ナク休車ノ節ハ其ノ部分品名等明細ニ
記入相成度

自家用車 = 板車・輕便貨車報告書(月分)

貴國自家用白馬車二輛以爲禮送部

嘉祥十八年八月一日現在

糧名

提督

所在地

町
倉
棧

庚
第
一
八
冊

昭和十八年八月七日

福岡縣田川縣川崎町大字川崎字弓折一香島

共利石炭礦
炭採會社
島
礦
業

北九州石炭統制組合

資材部第二課 御中

脱脂大豆所製醬油空報告

記

炭 礦 名	數 量	鐵 質 純 名	炭 質 純 名	備 考
島越鐵業所	七〇俵	田川縣	川崎町	



町
倉
棧
田
川
縣
川
崎
町

坑
炭
煙
島

(庚 八 冊 四 五 號)

庚第 14 冊

破名號ニ住所ヲ置居

今茲舊館原用本址流記ノ移居ニ移轉ト同時ニ姓名變更致シ後部
此ノ段物則市上仕也

昭和十八年八月四日

群馬縣田川郡川町新

共田石倉林局 倉 庫

清水式會社 倉 庫

北北島石炭統制組合
資材部

調 申

記

新住所姓名

群馬縣川町新本館二丁目二〇六番地ノ一

共田石炭統制組合

新住所姓名

群馬縣川町新本館二丁目二〇番地

共田石炭統制組合



川町新田川町新田

坑 炭 通 島

(庚 八 冊 四 冊)

所長	局長	課長	係長	年月日
	水口	赤		

共

控

庚第一一〇號

昭和十八年八月三日

福岡県田川郡川崎町

共同石炭礦
炭株式会社
總 店
業 所

北九州石炭統制組合
資 材 部
中

エントレスニ依ル炭炭能率調査ニ關スル件

標記ノ件別紙ノ通り御報告申上候條御査收被下度御願申上候

共同石炭礦株式會社

坑 炭 越 島
(株 式 公 司)

エンドレスニ依ル過炭能率表

北九州石灰統制組合製材部 御中

所在地 福岡縣田川郡川崎町

炭種名 島 越 無 炭 所

電動機 馬力數	鋼 索 ノ直徑	鋼 索 ノ長サ	巻 繞 面 數	一箇ノ 容 積	一日ノ 捲揚數	一日ノ 過炭高	一ヶ月平 均過炭高	上 半 期 過炭實數	目標出炭高	備 考
40HP	30mm	15.20	1 箇	0.60	120箇	270	7000	31915	28000	一 坑
50HP	30mm	15.30	1 箇	0.60	120箇	270	7000	37556	42000	二 坑
計						540	14000	69471	70000	

備 考 過炭實數昭和十八年自一月至六月

目標出炭高昭和十八年自四月至九月

巻繞面數一箇トシ其ノ間隔ヲ30cmヲ規定シアルガ之ハ地形傾斜ノ關係上ニ因ル

(旁)

昭和十八年七月二十六日

昭和十八年七月二十六日

北九州府税務局組合事務部

査察部

シンドル入ニ関スル査察部調査ノ内ニ付

標記ノ件ノ内ニ調査ノ必要有ニ付七月二十日迄ノ様式ニテ

各組合必至而シテ送付ス相成度トテ調査ノ統計資料ニ付テ

之確ニ送調査ノ送付振子相成度送付徳々申スル

19

品 目 表 廣

18



昭和十八年七月廿一日

島嶼調査一〇一號

福岡縣田川郡川崎町

共同石炭株式會社

島嶼調査所

北九州石炭統制組合

資材部御中

昭和十八年度板硝子需要調査ノ件（四答）

昭和十八年七月廿八日附北石炭一七九號ニ基テ首座ノ件ニ關シ

別添ノ通り及報告候也

町域調査用紙第四號

坑炭廻島

（第九編四三號）

昭和十八年度生用用費概算表

品 類 表

一、四半期		二、四半期		三、四半期		四、四半期	
需要量	使用場所	需要量	使用場所	需要量	使用場所	需要量	使用場所
箱		箱		50箱	更新者 住宅	40箱	合宿所
箱		箱		12箱	換気機 水洗機	30箱	更新者 住宅
計							

第一四半期ニ於テ説明書ノ発行ヲ受ケタル数量

箱 数 34箱

所長	監長	課長	技師	年 月 日

昭和十八年度分

昭和十八年七月三十一日

共同研究
青森県会
会
通
六
八

北沢川合流地創組令

沼村部決申

昭和十八年度投硝子重量調査ノ件(附合)

昭和十八年七月二十八日付世宗第一二八八號、其ノ旨趣ノ件。附
別添ノ通及報告書

昭和十八年度生用教範子計表

通 表

一、四年 第一、四年 第二、四年 第三、四年 第四、四年 第五、四年 第六、四年 第七、四年		二、四年 第三、四年 第四、四年 第五、四年 第六、四年 第七、四年 第八、四年		三、四年 第四、四年 第五、四年 第六、四年 第七、四年 第八、四年 第九、四年		四、四年 第五、四年 第六、四年 第七、四年 第八、四年 第九、四年 第十、四年	
需要量	使用場所	需要量	使用場所	需要量	使用場所	需要量	使用場所
箱		箱		50 箱	另、省 住、宅	40 箱	合宿所
箱		箱		12 箱	接合機 水機	30 箱	另、省 住、宅
計							

第一回申請は於て教範書ノ發行ヲ受ケタル校長

箱 数 36 箱

用要御中

北石資一七九號

昭和十八年七月廿八日

北九州石灰統制組合事務部

炭 礦 御 中

昭和十八年度炭礦子細集算調査ノ件

標記ノ件ニ就テ標記倉石炭面長ヨリ調査方選騰有之炭盤左記記載注意
點標ノ上來ル八月三日迄當組合必需ナシ提提出相成候

記載注意

一 單位ハ箱（並厚二粒一〇〇）以入箱換算ノコトトスルコト

一 使用炭灰ハ房新住宅用・毒蝨倉用・煙草場用等詳細記入ノコト

一 第一四半期ニ證明書發行ヲ受ケタルモノハ證明書發行該記載點ノコト



戶稅課



炭坑田中

代用品應聯合開採時需變更組織／管

船國領山豐等島主は、三ノ領に、
 置共午三時開張ノコトニ、
 即午前一時開張ノコトニ、
 ノ上御出船成度此取廻如指

多產者

方勝	銳放	配冷打	用度	機杖
秋下	田中	大經	興付	土口
秋下	中國	大經	興付	土口

機材 用度 配給 鋭意 芳名

昭和三十八年七月五日

昭和三十八年七月五日

昭和三十八年七月五日

昭和三十八年七月五日

昭和三十八年七月五日

昭和三十八年七月五日

タルモノ

二 説明會

出品ノ品ナルモノニ付、其ノ性能ヲ説明シ、其ノ普及強化ヲ期ス

モノトス

三 質提應用

出品者ヨリ代用品ニ關スル質提ニ對シ、性能者間ヨリ應答ヲナシ、
發ニ於テ代用品ノ利用獎勵ヲナスト共ニ之ニ關シテ研究開發ヲ行ハ
ル

卷之四

得 勝

易塔へ懸ち折衝各位登り御徒諸ニテ茶宴
 ノ爲メ舞臺間ノ御事置ノ座リニ奉存候
 陳者衆而組合事務局ヨリ御通知申上候事ト存
 候食料代用品購置會へ左記ノ通り變更成儀
 御用度係若シクハ煩悩々員御一人是非御出居
 組成儀致支御通知申上候

會風杭御中

一日時 昭和十八年七月二十日（火曜）十三時
二日時 直方市多賀神社裏救護訓練所

福 田 縣	縣 署	百 餘 里
廿四石各村合作社 烏通社	合社工場	
子一六件數構的 專用側線	路障已分	
200米	迄右距離	
10 新製茶	保物製茶 主要量	
廿四石各村合作社	指定資料	
田川增川停歇的班 子一六件數構的	備 子	

送產檢査分社所有路障調查表（昭和十七年度未現存）

昭和十八年度新増設路線調査表

路線名	所在地
福岡県	福岡県
大田石産株式会社 烏通鉄管等	大田石産株式会社 烏通鉄管等
第一大田鉄管 要田側線	第一大田鉄管 要田側線
70米長	70米長
20新敷線	20新敷線
大田石産株式会社	大田石産株式会社
旧川崎町崎町引込 第一大田鉄管	旧川崎町崎町引込 第一大田鉄管

新増設路線調査表

福岡県

大田石産株式会社

烏通鉄管等

第一大田鉄管

要田側線

70米長

20新敷線

大田石産株式会社

旧川崎町崎町引込

第一大田鉄管

昭和十八年七月二日

北九州石灰製造組合資料部

多野

製 機 中



生産機完産業ニ於ケル製造機ニ關スル調査ノ件

御覽ニ付シ石炭採掘會ヨリ別紙ノ通り申越有之製造機付機式ニヨリ十七年度本現在所有製造機及十八年度ニ於テ新増設ヲ決定セルモノヲ夫々ニ調査ノ上各工場宛來ル七月十日迄當部必達ニテ提出相成度

記

一 記機注意ニ就テハ別紙點檢可相成度

(一) 「路線區分」ノ内組合長機分ハ殆ンド「專用機組」・「専用ノ引

込機」・「原ス

(二) 「使用機組ノ責任者」ハ宛ニ問答ナキヤウ記機セラレ度

(三) 「備考」モ該レナク要領ヲ記機相成度

資訓第三六號

昭和十八年六月十七日

同文。各會員
寫。燃料局石炭部長、各支部

篇長殿

敬請謹啟

御中

石炭統制會
資材部長 七瀬 善吉



生産研究所 産炭ニ於ケル饋送路網ニ關スル調査ノ件
（組合）所屬地 礦位ニ關シテ燃料局ノ外調査方依頼地ニ之を關會社（其
況ニ於テ鐵道路網新設ノ豫定セル炭田並ニ投資財源ニ關シテハ
別紙「昭和十八年新增鐵道路網調査表」ニ依リ、昭和十八年
月一日迄ニ調査三通宛作成當都送附相成度此段及御照會候 敬具
道而本調六ニ關シテハ左記御含相成度申渡候
記
（一）軍管理工場ニ關シテハ調査ヲ要セザルモノトス

此に一事業場ニシテ二種以上ノ産業ニ關聯スルモノニ付テハ其地場
區限ノ上他産業部門提出書類ヲ重複セザルヤウ措置セラレ
ルベシ

記載注意

一「路線区分」へ左ノ別ヲ記載ノコト

専用鐵道――専用鐵道規程ニヨリ免許ヲ受クルモノ

軌道――軌道法又ハ内務省令第四五號ニヨリ免許ヲ受クルモノ

専用側線――専用ノ引込線

締約線――本用鐵道、軌道ニアラザル工場構内ニ於ケル路線

二「延長距離」ハ各路線区分等ノ延長杆數ヲ記載ノコト

三「所用設備ノ負擔者」ハ關係土木等ノ資材ノ支出ニ付左ノ別ヲ記載ノコト

自社鐵軌――當該工場事業場ニ於テ支出スルモノ其ノ資材ヲ鐵軌統

制會ヨリ配當ヲ受クルモノトス

自社軌――當該工場事業場ニ於テ設置資材ヨリ支出スルモノ

鐵道省（又ハ鐵道會社）――鐵道省又ハ地方鐵道會社ヨリ支出ス

ルモノ

四「備考」ニハ「××線ヨリノ引込線」「××工場××工場間ノ路線」

等路線ニ關シ參考トナルベキ事項及ビ資材ノ負擔等ニ關シ特別ノ契

約アル場合ニ付記載ノコト

生產機元會社所有路線調查表（昭和十七年度末現在）

石炭部

路線名	共同石炭株式會社
會社工場名	出組礦業所
路線區分	第一大徑取橋内 專用側線
延長距離	1300米
使用軌條 ノ重 量	130新軌條
鋪設資材 其他省材	共同石炭株式會社
備 考	川線川崎取所引込 第一大徑取橋内

記載注意

一 本調査ハ當該工場ノ所有ニ屬スル路線ニ付テノ調査ノコト

二 路線區分ハ專用鐵道、號道、專用側線、管内線ノ別ヲ記載ノコト

三 延長距離ハ各路線區分毎ノ延長距離ヲ配入ノコト

四 補修資材負擔者ハ軌條技術等ノ補修資材ノ支出ニ付テハ別々記載ノコト

五 自社鐵道一 當該工場事業場ニ於テ支出スルモ其ノ資材ヲ他鐵道

制會ヨリ配當ヲ受クルモノ

六 自社一 當該工場事業場ニ於テ生發資材中ヨリ支出スルモノ

七 鐵道省（又ハ鐵道會社）一 鐵道省又ハ地方鐵道會社ヨリ支出ス

ルモノ

參考

(一) 專用鐵道規程

第一條 本規程ハ道府縣其ノ他ノ公共團ハ又ハ私人ガ專用ニ供スル

爲敷設スル鐵道ニシテ左ノ各號ノ一ニ當テタルモノニ之ヲ適用ス

一 公衆ノ用ニ供スル鐵道又ハ軌道ト稱スルモノ

二 公衆ノ用ニ供スル鐵道又ハ軌道ト稱スルモノ但シ人ガ又ハ馬

力ヲ動力トスルモノヲ除ク

三 前號ノ專用鐵道ト稱スルモノ

(二) 軌道法

第一條 本法ハ一般交通ノ用ニ供スル爲メ設ケル軌道ニ之ヲ適用ス

一般交通ノ用ニ供セザルモノ軌道ニ屬スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ

定ム

(三) 大正十二年內務省令第四十五號

第一條 一般交通ノ用ニ供セザル軌道ヲ建設ニ當テセントスルハ

方長官ノ許可ヲ受クベシ

局長殿
事務課御中
事務課御中

北有管發第一〇八三號
昭和十八年七月八日

農 業 中

北九州石炭統制組合資料部



農務課内外務部明細表並圖面提出ノ件

題記ニ因シテハ五月二十八日附北有管發第七五七號及六月十一日附
第九二七號ヲ以テ第一表（明細表）第二表（農務外圖）第三表（農
務内圖）各二部宛六月二十日迄ノ提出期日ニ相成居候ヘ共來々提出
ナキ一部農務ノタメ提出ノ後農務ヘモ資料調査ニ支障ヲ生シ居候
御多忙中ニテ登臨トハ存候ヘ共來々十五日迄當該組合必着ニテ提出
相成候間本朝日迄ニ提出ナキトキハ今後資料調査ニ不利ノ事アル
モ如何トモ致意候ニ付此段特ニ申渡候

以 上

補修用墊板と關スル調査書

馬 廻 旋 領

[illegible]

10



昭和十八年六月十九日

福岡縣田川郡川崎町

共同石炭株式會社 總 部

北九州石炭統制組合
資材部第一課 洞 中

北石炭統制第七課ヲ以テ洞開會ニ係ル前開ノ件別紙同封御送附申
上條條御査收ノ上可然御洞市上條

以 上

共同石炭株式會社
福岡縣田川郡川崎町
共同石炭株式會社
(第八號 洞 中)

島 越 炭 坑

炭	價	內	外	施	明	經	表
---	---	---	---	---	---	---	---

同 縣 田 川 郡 川 崎 町

所業類題

第一張ノ一

昭和十八年五月一日現在

[illegible]

見本	施設物件	施設 種類	戸数	坪数	棟数	設置年月日	屋根種類	数量	容積	電力方式	決定年月日	増設ノ理由	見本
番號	第一號ノ部												番號
1	職員住宅(甲)	瓦葺	一戸	45坪	1棟	大正11年							
2	乙	瓦葺	二戸	32坪	1棟	大正11年							
3	乙	瓦葺	二戸	43坪	1棟	大正11年							
4	乙	瓦葺	二戸	45坪	1棟	大正11年							
5	甲	瓦葺	一戸	32坪	1棟	大正12年							
6	乙	硬質瓦	一戸	17坪	1棟	大正13年							
7	乙	瓦葺	一戸	14坪	1棟	大正13年							
8	甲	瓦葺	一戸	22坪	1棟	大正13年							
9	甲	瓦葺	一戸	22坪	1棟	大正13年							
10	乙	瓦葺	一戸	18坪	1棟	大正13年							
11	乙	瓦葺	二戸	42坪	1棟	大正13年							
12	甲	瓦葺	一戸	23坪	1棟	大正13年							
13	乙	瓦葺	二戸	39坪	1棟	大正14年							
14	乙	瓦葺	一戸	39坪	1棟	大正15年							
15	俱樂部	スレート	一戸	58坪	1棟	大正15年							
16	甲	瓦葺	一戸	48坪	1棟	大正15年							
17	郵便局	瓦葺	二戸	50坪	1棟	大正15年							
18	配給所	瓦葺	一戸	58坪	1棟	大正15年							

京 領 内 外 施 明 細 表

島 岡 縣 田 川 郡 川 崎 町

第一表ノ三

昭和十八年五月一日現在

島 岡 縣 田 川 郡 川 崎 町

見次	施設物件	種類	戸数	坪数	棟数	設置年月日	屋根種類	数量	容量	能力形式	竣工年月日	増設ノ理由	見次
第一號ノ部	第一號ノ部	瓦葺	一戸住	30坪	1棟	16/12							
21	社員住宅(甲)	瓦葺	一戸住	31坪	1棟	16/10							
22	"	瓦葺	"	21坪	1棟	16/10							
第二號ノ部	第二號ノ部	瓦葺	二戸住	38坪	1棟	16/5							
1	職員住宅乙	瓦葺	一戸住	19坪	1棟	16/5							
2	"	瓦葺	一戸住	19坪	1棟	16/5							
3	"	瓦葺	一戸住	60坪	1棟	16/7							
4	"	瓦葺	一戸住	19坪	1棟	16/5							
5	"	瓦葺	一戸住	20坪	1棟	16/5							
6	"	瓦葺	一戸住	25坪	1棟	16/5							
7	供 給 部	トタン	組合所	19坪	1棟	16/5							
8	配 給 所	瓦葺	一戸住	50坪	1棟	16/7							

設置設備明細表

島根縣田川郡川崎町

第一表ノ四

昭和十八年五月一日現在

島根縣田川郡川崎町

見込	設置設備明細	増設機定明細	見出
番付	施設物件 原機別 戸数 坪数 棟数 設置年月日	原機別 数量 容量 能力 式 決定年月日 増設ノ理由	番付
第 一 流 ノ 部			
1	倉庫 丸 葺 26坪 1棟 12.5		
2	" 丸 葺 48坪 1棟 9.5		
3	" 丸 葺 40坪 1棟 10.6		
4	" 丸 葺 72坪 1棟 16.2		
5	" 丸 葺 75坪 1棟 17.1		
第 二 三 流 ノ 部			
1	猪上家 24坪 1棟 12.5		
2	" 24坪 1棟 12.5		
3	" 24坪 1棟 12.5		
4	" 24坪 1棟 12.5		
5	" 24坪 1棟 12.5		
6	" 24坪 1棟 12.5		
7	" 24坪 1棟 12.5		
8	" 24坪 1棟 12.5		
9	" 24坪 1棟 12.5		
10	" 24坪 1棟 12.5		
11	" 24坪 1棟 12.5		
12	" 24坪 1棟 12.5		

表經明驗內外經

町 崎 川 郡 田 川 縣 岡 縣

鳥 鋼 鎖 葉 所

第三表 / 四

見込	既設備明細						増設豫定明細						見込
番	備設物件	原価 概別	戸数	坪数	棟数	設置年月日	原価種別	数量	各種	能力形式	決定年月日	増設ノ理由	概算
1	第一坑ノ竈	1200		12	1	8.5							
2	"	"		6	1	8.5							
3	"	"		12	1	8.5							
4	"	"		12	1	8.5							
5	第二坑ノ竈	1200		12	1	12.3							
6	"	"		6	1	12.3							

片 價 內 外 施 明 細 表

町崎川郡田縣國

所 業 鋼 鋸 品

昭和十八年五月一日現在

第一表ノ五

見込		既設設備明細					増設設備明細					見込
品名	施設物件	戸数	弁数	機数	設置年月日	原機種別	数量	容量	能力形式	決定年月日	増設理由	備考
	第二工場ノ部											
13	倉庫		20	2	12.7							
14	配電所		26	1	3.6							
15	扇風機		10	1	11.8							
16	坑口上屋		25	1	15.9							
17	"		25	1	"							
18	事務室		9	3	"							
19	配電所		32	1	16.1							
	第一工場ノ部											
1	エンドレス		12	1	7.8							
2	配電所		100	2	11.7							
3	扇風機		62	3	5.4							
4	掃揚機		30	1	12.2							
5	機掛上家		13	1	4.8							
6	調査所		42	1	15.2							
7	事務所		64	1	13.3							
8	扇風機		44	3	10.8							
9	保安灯室		26	1	15.3							
10	扇風機		13	1	14.9							

炭 礦 内 外 施 明 細 表

島 岡 縣 田 川 郡 川 崎 町

第一表 / 六

昭和十八年五月一日現在

島 岡 鐵 業 所

見出	既 設 備 明 細					増 設 條 定 明 細					見出		
番 號	施 設 物 件	配 根 別	戸 数	坪 数	棟 数	設置年月日	原 根 種 別	数 量	存 続	能力型式	竣工年月日	増 設 ノ 理 由	番 號
第	第一坑ノ扇												
11	機械工場	スーパ		48坪	1棟	昭和15.5							
12	機械上家	"		56坪	1棟	昭和17.12							
13	木工場上家	瓦葺		20坪	1棟	昭和12.5							
14	"倉庫	瓦葺		21坪	1棟	昭和13.8							
15	炭庫場	スーパ		20坪	1棟	昭和14.4							
16	粉砕機上家	瓦葺		20坪	1棟	昭和7.8							
17	大炭倉庫	瓦葺		4坪	1棟	昭和13.5							
18	給水ポンプ上家	スーパ		32坪	1棟	昭和12.6							
19	大炭倉庫	瓦葺		6坪	1棟	工部中							
20	大炭倉庫	瓦葺		4坪	1棟	"							
21	給水上家	スーパ		6坪	1棟	昭和11.8							
22	炭庫場	"		4坪	1棟	昭和11.1							
23	貯炭場	"		530坪	1棟	豫定中							

附 録 内 外 施 明 細 表

町 川 郡 田 部 町 駐 留 所

第一 表 / 七

昭和十八年五月一日現在

島 洲 嶺 築 所

見込 番	施設物件	戸数	坪数	棟数	設置年月日	屋根種別	数量	容積	動力型式	決定年月日	施設ノ理由	見込 番
第1	職員住宅一棟	5戸	42坪	1棟	1937							
2	職員住宅	5戸	42坪	1棟	1937							
3	久保合宿	22人	32坪	1棟	1937							
4	職員住宅	11戸	104坪	3棟	1937							
5	"	4戸	24坪	1棟	1937							
7	"	4戸	32坪	1棟	1937							
8	"	7戸	66坪	1棟	1937							
9	"	3戸住	32坪	1棟	1937							
10	"	12戸	108坪	3棟	1937							
11	田中合宿	24人	45坪	1棟	1937							
12	職員住宅	5戸住	32坪	1棟	1937							
13	"	10戸	90坪	3棟	1937							
14	"	6戸	64坪	2棟	1937							
15	"	4戸住	45坪	1棟	1937							
16	"	6戸住	57坪	2棟	1937							
17	"	4戸	64坪	2棟	1937							
18	"	13戸	116坪	3棟	1937							
19	"	4戸住	45坪	1棟	1937							
20	"	10戸住	90坪	2棟	1937							

新 潟 県 内 外 橋 明 細 表

新潟縣田川郡川崎町

第一表ノ八

昭和十八年五月一日現在

島 根 新 築 所

見出	施設物件	現 有	戸 数	坪 数	棟 数	設置年月日	原 形 種 別	敷 地 容 積	新 力 規 式	設置年月日	増 設 ノ 理 由	見出
31	職員住宅一棟	乳 牛	3戸住	33坪	1棟	13.3.30						
32	"	"	2戸住	66坪	2棟	13.3.8						
33	職員合宿	"	22人	52坪	1棟	13.3.30						
34	職員住宅	"	3戸住	24坪	1棟	17.11.1						
35	"	"	2戸	24坪	1棟	13.3.8						
36	"	"	1戸	19坪	1棟	10.5.1						
37	"	"	2戸	23坪	1棟	16.8.30						
38	"	"	6戸住	63坪	2棟	13.10.1						
39	"	"	7戸住	63坪	2棟	13.6.8						
40	"	"	4戸	35坪	1棟	14.10.30						
41	"	"	2戸	22坪	1棟	10.11.1						
42	"	"	3戸	95坪	2棟	13.3.3						
43	"	スレート	3戸	36坪	1棟	12.5.1						
44	"	瓦	116戸	280坪	5棟	13.11.1						
45	"	"	118戸	170坪	5棟	16.3.1						
46	"	"	5戸	48坪	1棟	16.3.1						
47	"	"	"	180坪	4棟	18.2.1						
48	"	"	"	450坪	10棟	工事 中						

農 業 内 外 施 明 細 表

福 岡 縣 田 川 郡 川 崎 町

第 一 表 / 九

昭和十八年五月一日現在

農 業 施 設 所

見 出	既 設 施 明 細						増 設 施 明 細						見 出
番 号	施 設 物 件	坪 数	戸 数	坪 数	棟 数	設置年月日	原 部 預 算	数 量	各 種	能力型式	採 定 年 月 日	増 設 ノ 理 由	番 号
第 一	職員住宅一棟												
第 二	職員住宅	10坪	2戸住	28坪	1棟	1910							
第 三	"	瓦	2戸	6坪	2棟	7.8							
第 四	"	"	2戸住	27坪	1棟	"							
第 五	"	"	2戸	9坪	2棟	10.8							
第 六	職員住宅二棟												
第 七	職員合宿	1坪	22人	3坪	2棟	10.8							
第 八	職員住宅	瓦	2戸住	3坪	2棟	8.8							
第 九	職員合宿	1坪	22人	3坪	1棟	10.8							
第 十	"	"	22人	3坪	4棟	11.5							
第 十一	"	"	2戸住	7.2坪	1棟	11.10							
第 十二	"	"	2戸	10.8坪	2棟	11.12							
第 十三	"	瓦	2戸	12.6坪	2棟	11.8							

設 備 内 外 施 明 細 表

第一表ノ十

昭和十八年五月一日現在

島 田 市 田 川 郡 川 崎 町

島 田 市 田 川 郡 川 崎 町

見込	既 設 備 明 細						増 設 備 定 明 細						見込
番 号	備 設 物 件	屋 根 種 別	戸 数	坪 数	棟 数	設置年月日	屋 根 種 別	数 量	存 額	能力形式	確定年月日	増 設 ノ 理 由	番 号
第 一 號	便 所	瓦 葺		1棟3坪	5棟	1/5/11							
"	"	"		1.5坪	48坪	1/5/11							
"	"	"		3坪	7坪	建設中							
"	"	以		上									
第 二 號	"	瓦 葺		1.5坪	24坪	10/5/11							
"	"	以		上									
二 號	接 橋			巾 2匹	18.5坪	1/5/11							
"	外 橋			高 1匹	6.50坪	"							
"	置 車				700坪								
"	置 車				50坪								

農 經 內 外 施 明 細 覽

第十表

昭和十八年五月一日現在

福 岡 縣 田 川 郡 川 崎 町

品 別 鋼 業 所

見込	低設備明細	増設條定明細	見込
品名	品目	数量	数量
第一機	機	1台	1台
第二機	機	1台	1台
第三機	機	1台	1台
第四機	機	1台	1台
第五機	機	1台	1台
第六機	機	1台	1台
第七機	機	1台	1台
第八機	機	1台	1台
第九機	機	1台	1台
第十機	機	1台	1台
第十一機	機	1台	1台
第十二機	機	1台	1台
第十三機	機	1台	1台
第十四機	機	1台	1台
第十五機	機	1台	1台
第十六機	機	1台	1台
第十七機	機	1台	1台
第十八機	機	1台	1台
第十九機	機	1台	1台
第二十機	機	1台	1台
第二十一機	機	1台	1台
第二十二機	機	1台	1台
第二十三機	機	1台	1台
第二十四機	機	1台	1台
第二十五機	機	1台	1台
第二十六機	機	1台	1台
第二十七機	機	1台	1台
第二十八機	機	1台	1台
第二十九機	機	1台	1台
第三十機	機	1台	1台
第三十一機	機	1台	1台
第三十二機	機	1台	1台
第三十三機	機	1台	1台
第三十四機	機	1台	1台
第三十五機	機	1台	1台
第三十六機	機	1台	1台
第三十七機	機	1台	1台
第三十八機	機	1台	1台
第三十九機	機	1台	1台
第四十機	機	1台	1台
第四十一機	機	1台	1台
第四十二機	機	1台	1台
第四十三機	機	1台	1台
第四十四機	機	1台	1台
第四十五機	機	1台	1台
第四十六機	機	1台	1台
第四十七機	機	1台	1台
第四十八機	機	1台	1台
第四十九機	機	1台	1台
第五十機	機	1台	1台
第五十一機	機	1台	1台
第五十二機	機	1台	1台
第五十三機	機	1台	1台
第五十四機	機	1台	1台
第五十五機	機	1台	1台
第五十六機	機	1台	1台
第五十七機	機	1台	1台
第五十八機	機	1台	1台
第五十九機	機	1台	1台
第六十機	機	1台	1台
第六十一機	機	1台	1台
第六十二機	機	1台	1台
第六十三機	機	1台	1台
第六十四機	機	1台	1台
第六十五機	機	1台	1台
第六十六機	機	1台	1台
第六十七機	機	1台	1台
第六十八機	機	1台	1台
第六十九機	機	1台	1台
第七十機	機	1台	1台
第七十一機	機	1台	1台
第七十二機	機	1台	1台
第七十三機	機	1台	1台
第七十四機	機	1台	1台
第七十五機	機	1台	1台
第七十六機	機	1台	1台
第七十七機	機	1台	1台
第七十八機	機	1台	1台
第七十九機	機	1台	1台
第八十機	機	1台	1台
第八十一機	機	1台	1台
第八十二機	機	1台	1台
第八十三機	機	1台	1台
第八十四機	機	1台	1台
第八十五機	機	1台	1台
第八十六機	機	1台	1台
第八十七機	機	1台	1台
第八十八機	機	1台	1台
第八十九機	機	1台	1台
第九十機	機	1台	1台
第九十一機	機	1台	1台
第九十二機	機	1台	1台
第九十三機	機	1台	1台
第九十四機	機	1台	1台
第九十五機	機	1台	1台
第九十六機	機	1台	1台
第九十七機	機	1台	1台
第九十八機	機	1台	1台
第九十九機	機	1台	1台
第一百機	機	1台	1台

炭 酸 内 外 施 設 明 細 表

第二表ノ一

昭和十八年五月一日現在

福岡縣田川郡川崎町

馬 場 築 設 法

見上	施 設 物 種	数量, 容積, 能力, 型式等	設置年月日	備 考	基 年	基 月	数量, 容積, 能力, 型式	増設ノ理由	見出
	第一坑								
4	電氣揚揚機	1 300 ^{HP} 10馬車動機置	昭和8年9月						
5	"	1 125 ^{HP} 4	" 4 1						
10	扇風機	1 90° 2000 ^{mm} 1777式	昭和14年9月						
2	磨炭機	1 30° 200 ^{mm} 1777式	昭和14年7月						
3	"	1 20° 20 ^{mm} 1777式	昭和13年4月						
1	エンプレス機	1 40° 40 ^{mm} 1777式	昭和14年7月						
2	水磨機	1 25° 15 ^{mm} 1777式	昭和14年11月						
2	カーボローター	1 15° 4 ^{mm} "	" "						
11	旋 盤	1 3645 ^{mm} 普通	昭和8年5月						
11	ボ ー ル 盤	1 255° 壓盤	"						
11	送 風 機	1 100° 扇形	"						
11	ピツタシャフナー	1 75 ^{mm} 日立製	昭和14年7月						
2	ピュガムポンプ	1 08.3X10 ^{mm} セント	昭和14年11月						
21	タービンポンプ	1 40 ^{mm} 08.3X90	昭和14年11月						
21	"	1 50 ^{mm} 08.3X90	" 10						
15	製材器	1 5 ^{mm} 120石	昭和17年7月						

第二表ノ二

陸 橋 内 外 陸 設 明 細 表

昭和十八年五月一日現在

島 根 縣 雲 南 町

島 根 縣 雲 南 町

見出し	既 設 備 明 細				増 設 備 定 明 細				見出し	
	施設物件	数量、容量、電力、型式等	設置年月日	備 考	竣工月	数量、容量、電力、型式	増設ノ理由			
	第 二 款									
4	電気揚揚機	1 300 ^{HP} X 10 ^馬 草履式	昭和10 8							
3	"	1 50 X 4	" 10 9							
7	扇 風 機	1 60 X 12 ^寸 日本式	" 11 9							
19	原 動 機	1 200 X 2 ³³ 日本式	" 15 11							
5	揚 炭 機	1 20 X 30 ^馬 日本式	" 13 1		18 8	1 20 ^{HP} X 30 ^馬 草履式	事業擴張	6		
6	水 運 機				18 8	1 30 ^馬 X 15 ^馬 草履式	"	6		
8	エンドレス捲	1 50 X 40 捲取式	昭和10 11							
19	ワイヤ	1 1250番(金線)	" 16 11							
	第 三 款									
2	電気揚揚機	1 50 X 2 ^馬 捲取式	" 15 8		18 8	1 50 ^馬 X 10 ^馬 草履式	事業擴張	1		
15	扇 風 機	1 100 X 42 ^寸 日本式	" 17 8							
	抽 水 機									
5	電気揚揚機	1 50 X 2 ^馬 捲取式	" 15							
6	"	1 " X 2 ^馬 "	" 17 4							

外 國 産 品 名 簿

第二表ノ三

昭和十八年五月一日現在

群馬縣田川郡川崎町

馬場橋事務所

見込 番號	既 設 情 明 細				増 設 情 明 細				見込 番號
施 設 物 件	数量, 容量, 電力, 型式等	設置年月日	備 考		数量, 容量, 電力, 型式	増設ノ理由	備考		
	一 次 変 圧 器	1台 300KVA	三相線路	昭和18年5月					
4	電 源 線	1 300KVA	"	昭和18年5月					
5	"	1 150KVA	"	"					
2	"	1 30KVA	"	昭和18年7月					
2	"	1 15KVA	"	"					
2	"	1 25KVA	"	"					
2	電 源 線	1 10KVA	單 相	"					
3	電 源 線	1 5KVA	三相線路	昭和18年5月					
3	"	1 25KVA	"	"					
1	"	1 40KVA	"	昭和18年7月					
1	電 源 線	3 10KVA	單 相	"					
21	電 源 線	3 40KVA	三相線路	昭和18年5月					
21	電 源 線	3 10KVA	單 相	"					
15	"	3 5 "	"	"					
15	電 源 線	1 5KVA	三相線路	"					
10	"	1 90KVA	"	昭和18年9月					
11	"	1 75KVA	"	"					
11	"	1 5KVA	"	昭和18年6月					
11	電 源 線	6 10KVA	單 相	昭和18年5月					

黃 顯 內 外 施 設 明 細 表

第一張

島岡縣田川郡川崎町

也 列 樂 所

昭和十八年五月一日現在

[illegible]

表 明 教 施 外 內 諸 規

第二卷 / 3

昭和十八年五月一日現在

町崎川惣田田熱置島

五 退 納 票 所

見込	新設	設備	明細	設置年月日	備考	施設予定地	施設明細	見込
設備	施設条件	数量	容量, 電圧, 型式等				数量, 容量, 電圧, 型式	増設ノ理由
	二坑ノ外							
4	電動機	1	300HP 三相誘導	昭和10.8	本機			
3	"	1	300HP "	10.9	復機			
19	"	1	200HP "	16.11	扇風機			
8	"	1	300HP "	10.11	エンプラ			
8	變壓器	3	125KVA 單相	"	"			
5	"	2	"	13.1	扇風機			
5	電動機	1	300HP 三相誘導	"	"			
7	"	1	600HP "	11.4	扇風機			
7	變壓器	4	10KVA 單相	"	"			
	三ノ外	3	2.5"		電灯用			
	三坑ノ外							
2	變壓器	3	20KVA "	13.8	復機			
2	電動機	1	300HP 三相誘導	"	"			
15	"	1	1000HP "	17.8	扇風機			
	機ノ本坑ノ外							
5	電動機	1	300HP "	15	本機			
6	"	1	300HP "	17.4	復機			
4	變壓器	6	10KVA 單相	18	扇風機			

昭和十八年五月一日現在

臨興縣田川龍川兩町

品 超 鋼 藥 所

見上	設 備 明 細				増 設 設 備 明 細				見上
番 号	施 設 物 件	数量, 容量, 出力, 型式等	設置年月日	備 考	添付 年月	数量, 容量, 出力, 型式	増設ノ理由	番 号	
	変電所								
14	變 壓 器	3臺 15KVA 單 相	17 年	圖 簡 所					
14	"	6 500 "		變 電 所					
14	"	" 5 "		"					
	金 抗 外			電 柱 4 本					
	電 柱	320本	木 柱	7 本					

昭和十八年五月一日

福岡縣田川郡川崎町

基礎調査所

No.	施設名	数量、容量、能力、型式	設置年月日	備考	施設豫定明細		見次
					数量、容量、能力、型式	増設ノ理由	
1	第一棟						
2	シエコンペー	3 18 30 日立					
3	蓄電池	1 15 30 7=7					
4	コールドワー	4 40 日立					
5	ポンプ	2 300X27X303 44024					
6	"	2 130X13X228					
7	"	1 100X13X151					
8	"	1 40X103X90					
9	"	1 40X10X90					
10	第二棟						
11	蓄電池	3 15X30X 7=7					
12	ポンプ	1 80X27X 51 44024					
13	"	1 80X13X106					
14	"	3 40X13X90					
15	"	1 130X20X151					
16	"	1 90X13X151					
17	"	1 60X13X106					
18	"	1 40X10X90					
19	ポンプ	1 10X102X24 44024					

第三表ノ二

建設部内外施設明細表

昭和十八年五月一日現在

福岡縣田川郡川崎町

馬場橋築所

見出し 番號	既設簡明細					増設豫定明細			見出し 番號
	施設物件	数量, 容積, 能力, 型式等	設置年月日	備考	部外 備考	数量, 容積, 能力, 型式	増設ノ理由		
	第一区								
12	PTC ₂ ×8×7	1 130×20×15 ¹ 4000 ¹ 大13							
12	"	1 130×20×15 ¹ 4000 ¹ 大13							
13	"	1 100×10×90 4000 ¹ 大14							
14	PTC ₂ ×8×7	1 100×10×90 4000 ¹ 大14							
15	第二区	1 50×7×6 ² 4000 ¹ 大15				18 9 1 30×7×6 ² 4000 ¹ 大15	増設此区間を越す		15
	第三区								
20	PTC ₂ ×8×7	1 80×20×63 4000 ¹ 大13							
21	"	1 40×10×90 4000 ¹ 大13							
21	"	1 30×10×10 4000 ¹ 大13							
19	PTC ₂ ×8×7	2 75×25×30 4000 ¹ 大13							

昭和十八年五月一日現在

福岡縣田川郡川崎町

式通機業所

見上	既設箇明細				増設箇明細				見上
番	施設物件	数量、容量、能力、型式等	設置年月日	備考	番	施設物件	数量、容量、能力、型式等	増設ノ理由	番
1	電 油 機	2基 300 ^{HP} 三相誘導		イン					
1	"	3 130 ^{HP} "		"					
2	"	1 100 ^{HP} "		本機					
2	"	1 90 ^{HP} "		ポン					
2	電 機 器	3 15KVA 単 相		"					
5	"	3 " "		本機及ノ2基					
3	"	3 " "		コンクリートポン					
4	"	3 " "		新機 同上					
4	電 油 機	1 20 ^{HP}		ポン					
	二機★内								
6	電 油 機	2基 60 ^{HP} 三相誘導		3基					
6	"	1 80 ^{HP} "		ポン					
7	"	2 60 ^{HP} "		ポン					
8	"	1 130 ^{HP} "		ポン					
8	"	1 100 ^{HP} "		ポン					
9	"	1 60 ^{HP} "		ポン					
9	"	1 90 ^{HP} "		ポン					
10	電 機 器	3 20KVA 単 相		本機及					
	三機★内			ポン					

昭和十八年五月一日現在

臨江府志

通 理 館 藏 所

[illegible]

昭和十八年六月廿四日

北九州放送局商會時報部

廣田副委員長任 野中

熊本管區出張日誌ノ旨

出發博多時午前七時四十分

六月二十八日

〔折尾時午前八時五十六分〕

〔小倉時午前九時五十二分〕

〔杵築時 十時二十九分〕

大分縣常午前一時三十分

熊本駅ニテ打合せ、別府一泊（愛媛屋予定）

別府發午前七時 熊本發十三時九分

熊本駅へ行き打合せ、

六月二十九日 熊本（山口駅へ七月二日頃ノ予定）

六月三十日 不意、大分、熊本兩縣ノ熊本管區ニツキ特選旅費ノミ追加被下被領

以上



鳥羽

東京 御中

北石庄 御前 三〇 附

明治十八年六月十七日

北九州石炭鐵礦組合

生野郡 炭礦部



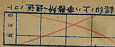
明治十八年六月十九日

田原

休養日ニ因シ御開會ノ件

茲ニ賜書發第一三八號ニヨリ御紹介有之候六月ヨリ九月ニ至ル貴國休養
決定日ニ當テ金銀台寄寓當方ヘモ一萬兩送附願上座此致並兼及御依願候也

尚々



北石新館第七四七號

昭和十八年五月二十八日

長 磯 御 中

岩手県大館市

北九州石炭鉄鋼通商

會社 第一課

蒙領内外諸般調査明細表並面作成ノ旨
照付ニ請メ今調査資料調査並論上ノ決定並調査資料トシテ施設台帳作成
上島森必良ニ付別紙様式ニヨリ左記第一號、第二號、第三號各二通宛
六月十五日迄ニ適合必着メテ御提出相成度候

記載上ノ注意事項

第一表 設備内外線設備説明欄 二 項

印 印設備ノ簡便ハ其レトテ、元來、設備修費等必ズ記入ノコト

印 設備、設備、能力、型式等ハ詳細記入ノコト

印 見出番號ハ第二表及第三表ノ前面ト背面ト詳細容易ニ見出シ得ル様ニ記

入ノコト

印 設備簡便等ノ基礎トナル故正副ニ記入ノコト

第二表 設備外線設備

二 項

印 第一表明細表ト密着シ得ル様見出番號記入ノコト

印 設備外線組合設備ノ延長度及電圧ヲ明記スルコト

第三表 設備内線設備

二 項

印 第一表ト密着シ得ル様見出番號記入ノコト

印 設備内線設備、全線ノ延長度ヲ明記スルコト

印 出線得レバ、ポンプ、扇風機等モ記入ノコト

以上

設備内外施設明細表

昭和十八年

月

日現在

住所

農園冬

見出	施設備則概				施設予定明細										見出
	施設物件	種類	数量	容量	能力	式	設置年月日	業	種	千	百	十	分	秒	
	社員住宅(甲)	戸住	年	棟											
	社員住宅(乙)														
	職員住宅														
	合宿所		年												
	俱樂部														
	浴場														
	飯所					夜									
	倉庫					庫									
	酒蔵														
	車庫														
	能給所														
	能給所														
	能給所														
	火油庫														
	水洗機上														
	送炭機上														
	池上														
	コンベヤー上														
	機														
	万														

昭和十八年五月十四日

北九州石炭鐵道聯合資材部

炭 鐵 道 中



竊取煤炭其他非常事態發生ノ場合ニ於ケル石炭の電力調整ニ關スル件

標記ニ度々ハロニ能ク本國産炭力ノ適量及配電會社ヨリノ適量ニ依リ電力及賣力計ノ一割割取ニ付天々萬々ノ位置ヲ變ジ居ラルヽコト、存餘ノ右ハ餘産ニ於ケル炭鐵道水陸ノ水位低下等ニ依リ電力調整ノ石炭不足ニ依ル出力ノ低下等ニ依リ電力供給ノ關係上止ムヲ得ザル一時の緊急對策トハ存ゼラルヽモ依然炭鐵道水陸現狀持續ノ場合ハ更ニ急一次ノ調整ニ依リテハ、炭ニシテ且ツハ非常事態ノ發生ヲモ願望ノ上何時ニテモ事態ニ順應セラルニ努ム事ル所更ニ二段三段ノ措置ヲモ此際充分ニ調査研究組織成置要

尚右實地調査ノ完ノ上ハ其實地要領ヲ詳細ニ調査對シテ併セテ之ヲ出
炭及石炭影響ノ程度等記、調査材料並無報告相煩ハシテ



長崎郵便局
長崎

長崎郵便局
長崎

昭和十八年三月十日

長崎郵便局

北九州石炭礦務局



異狀海水其能非常事應發生ノ場合ニ於ケル自主的電力制限ニ關スル件

編記ニ於テハ己ニ前本通信局長ヨリノ通牒及電會社ヨリノ通知ニ依リ電
力及電力量ノ一割制限ニ付夫々萬金ノ蓄積ヲ得ルハコト、存積ガ右
ハ最近ニ於ケル異狀海水^等ノ水位低下並ニ火力發電所ノ石炭不足ニ依ル由
力ノ低下等ニ依リ電力供給ノ即係上止ムヲ得サル一時的の緊急對策トハ存ゼ
ラル、モ依然海水等現狀持續ノ場合ハ更ニ第二次ノ制限ヲ豫想セラル、處
ニシテ且ツハ非常事應ノ發生ヲモ回避ノ上何時ニテモ必要ニ照應實行ニ夢
シ得ル機更ニ二段三段ノ措置ヲモ此際充分ニ歸究準備相成置處
尙ホ右實施對策決定ノ上ハ其實費要領ヲ詳細ニ調査書トシ併セテ之ガ出
張ニ及ボス影響ノ程度登記、當資料秘藏印報告相預ハシ厚



從燈員御給用
及磯内迄給用

自轉車及びヤシの生産調査報告書

一吐名

(昭和十八年三月一日)

[illegible]

資經第七二八號

昭和十八年三月二日

関文・各會員
各支部、出張所、炭礦（會員經由）

石炭統制會資材部

御中

寫

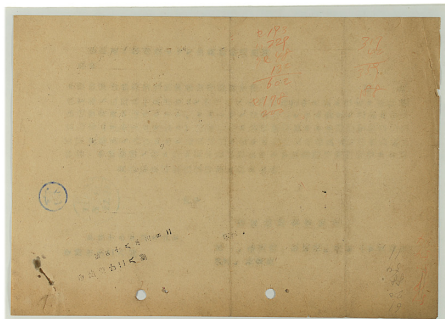


炭礦用自轉車運搬鋼索ニ關スル件

拜啓 今般鋼索ノ件ニ關シ日本自轉車用タイヤ卸商組合聯合會より、
工部化學局ノ内令ニヨリ石炭部同ニ管ケル炭礦用自轉車ノ内令適用
自轉車（リヤーカー含ム）現在運搬ニ付別紙様式ニヨリ照査方格に於て
右照査資料ニ添ヤタイヤ、チェーンノ種先照査ラサス當局ノ意向ニ付右
照了家ノ上三月一日現在ニテ御照査ノ上照三月二十日迄ニ當方ニ必着
ス様御報告相成度此致御通知尙得貴意歟

追伸

右調査ハ弊秘級トシテ御處理相成度候



0193
11289
1248
130
602
0174
200

306
378
100

(15)

明治三十四年九月
明治三十四年九月

11
25
28
0.5
12

昭和十八年一月十五日

北九州炭鉄礦組 組合資料部長

炭坑社長 森 有 三

急 須

大栗ニ關スル同 査 官 調 査 ノ 件

標記ノ件ニ關シ大栗ノ附以扶照査々々迫シ止ムヲ極メ今一層ノ簡便ヲ斷行
セザレバ輸送ニ重大ナル支障ヲ來スノ狀態ナルニ依リ此ノ點詳細ニ調査
既ノ實狀承知致シ既今更ニ復左記ニ依リ極端官調査致シ是依而盡ニ速附セ
ル「大栗側實地正位置出基並原海」作或ノ上青下（坑界内常不可能ナル地
合ハ坑内實狀ニ詳シク且ツ責任アル回答ヲ得ル方）說ニ用度保（若シ
クハ大栗側一問伴必不細調査相照成）
調査日出庫ノキ場合ハ調査員於テ山組合ニ一任有リタルモノト見做シ適宜
調査開始若シクハ派定致ス可ク候此ノ點特ニ査査ヲ特設

日 時 昭和十八年一月十九日 午前九時半ヨリ
場 所 大栗炭坑 経 持

昭和十八年度
以降

昭和
十
五
年
下
度



昭和十七年十二月廿五日

福岡縣田川郡川崎町

共同石炭局 株式會社

兼 所

北九州石炭統制組合
資材部炭業課 御中

十二月中公休日變更ノ件

茲ニ御報告申上候公休日中十二月廿七日ヲ十二月廿一日ニ變更
仕リ候條此段及御報告候也

福岡縣田川郡川崎町
共同石炭局 株式會社
(印 大 崎 川 崎 町)

坑

炭 週 刊

22100
110000



秋分の日
171026
大日本郵便

拜啓 秋分之夜貴台愈御清静幸甚賀儀

現下皇國ノ興衰ヲ毀屑ニ石異國保ニ日夜御精勵之段感戴ノ至リニ御座儀
然ルニ聞ク貴ニ使レバ某國ニテハ官組合其ノ他ニ他ジ職員ヘノ差務用榮
配物昂ク職員同ニテ大勢亦分駐シ新少並ニ准員ニ分異セルヤニア大ナ
ル不平ノ聲ヲ及聞儀

若シ此ノ弊風變遷セバ器大ナル社會問題ヲ際臨シ時局新尤モ不名譽ナル
非難ト處置ヲ蒙受ケザルベカラザルニ際御同貴會下職員 同へ此層戒
心ニ可ク御注意感戴下儀此ニ御面申上儀此
昭和十七年十月廿二日

貴會部第二課々長 平島 徳太郎 具

島廻坊長



内閣 宣 年 月 日

同 宣 年 月 日

同 宣 年 月 日

同 宣 年 月 日

同 宣 年 月 日

同 宣 年 月 日

同 宣 年 月 日

同 宣 年 月 日

同 宣 年 月 日

同 宣 年 月 日

同 宣 年 月 日

同 宣 年 月 日

同 宣 年 月 日

同 宣 年 月 日

同 宣 年 月 日

同 宣 年 月 日

同 宣 年 月 日

同 宣 年 月 日

同 宣 年 月 日

同 宣 年 月 日

同 宣 年 月 日

同 宣 年 月 日

同 宣 年 月 日

同 宣 年 月 日

同 宣 年 月 日

同 宣 年 月 日

同 宣 年 月 日

同 宣 年 月 日

同 宣 年 月 日

同 宣 年 月 日

同 宣 年 月 日

同 宣 年 月 日

同 宣 年 月 日

同 宣 年 月 日

同 宣 年 月 日

同 宣 年 月 日

同 宣 年 月 日

同 宣 年 月 日

上

上

No.

炭礦所在地

昭和十七年九月

目 現 在

炭 礦 名

律

西九州石炭統組合資材部



昭和十七年五月四日

北九州石炭鐵鋼組合資料

第一卷

共同石炭部會社
奥平清

粵
清

症

北九州石灰組合員整備要綱ニ關スル打合會開催ノ件

現時ノ情勢ハ則紙ノ如キ集要圖ノ下ニ早急ニ地方別ブツツ々整備細
ノ必要ニ迫ラレ居候條之レガ具體的創立ニ關シ懸望致度候間參差相成度
此致及案內候

一 日 時

昭和十七年五月九日午前十時

場所 熊本市真弓町和ビル（九州日報社隣）

運而當今北光尚不盡統制現今創至一二元陽金德幾只一解於石
吳行教者玄門萬陽緣今在生帝相金德

趣旨

現時日本ハ大東亞新大陸ノ創立ヲ目指シテ軍備ノ増強ト重點的生產力發
光ノ二大實機ノ元ニ正統界全体ノ生産力ヲ競爭目的ニ集中誘導シツ、ア
新國家權力發揚機構ノ確立ヲアルニ從テ國家ハ萬般ノ計畫機構ヲ組織必
要トナリ金策家ハ從業ノ知ヲ利便及至テアツテハナラズ獨自ノ目的ヲ
追テ創立の存在デアツテハナラズ各々ハ從價ノ一部トシテ有價的ニ組合
シ其色ノ國家目的ノ方向ニ對テ適ク做テ可ク以外無容ノ方法ヲ見ツテ得ナ
イハハ蓋シ現下内外ノ經濟勢ヨリシテ當然ノコトニ屬ス

要領

本會員ハ相互ニ其ノ各々ノ利益ノ「組織」並ニ商政ノ事情ヲ考慮ノ上地
域的「ブロック」制ヲ採用左記ニ依リ其ノ務區ハ共同ニ組合員各々ノ利

益執行ヲ執行スベキ事ヲ明記セテ組織スルコト

因組合員ノ利益執行形態ノ整頓組織並ニ運轉ハ組合ノ指導原理ニ依リ指
導スルコト

因組合員ノ利益執行形態ノ確限ハ從價組合ガソノ統制運営上其ノ他諸役
ノ事情ヨリシテ指示シタル事トシ並ニ該統制組合員所合セニ依リ與ヘラ
レタル範圍内ノ執行タルコト

因統制執行形態ハ與ヘラレタル範圍ノ範圍内ニ於テ統制執行上ハ組合員
相互ニ從價代行形態ヲ與ヘ責任ニ於テハ兩成各會員共同責任タルノ形
態ヲトルコト

因組合員ノ利益執行形態ハ從價組合員ニ於ケル中間機構ヲシタバ統制機
關トシ並ニ其ノ他各々ニ於ケル組合員自體ノ業務代行ノ形態ヲミルコト

因「イ」(一)ニ從ル組合ノ指導原理ハ「新大陸」等國体合導ニ從テ第三十七
章ニ依リ統制會(統制組合)ハ國民經濟ノ權力ヲ最も有効ニ發揮シシ
タル為當該統制會ノ統制運轉ヲ圖リ且ツ實業政策ヲ圖スル機關ノ立



案及進行ニ協力スルコトヲ目的トス。ニ依リテモノトス、

(ロ) 同ニ依ル指示トハ百分法記ノモノトスルコト

組合費材料ヨリ要領組合員ニ於テ作製スベキ取極等一切ノ代行
生財物資モシタバ生活必需品取得ニ關スル法記物資ニ計ス
ル注文、配分、支拂ニ關スル代行

取極用資材ニ付キテハ鐵鋼材、ソーバイト、火藥桶系、下等
△臨時貯蔵容器

生活必需品資材ニ付キハ米、味噌、醬油、代用食

其ノ他ハ必要ニ應ジ逐次組合ニ寄テ指定スルモノトス

(イ) 緊急執行形態ハ契約組合ヨリ要領ニ對シテハ正副且ツ迅速ニソノ機能
ヲ動員協力スルコト

(ロ) 緊急執行形態ハ擔取組合員ノ上層ニ立テテ取極スルノ強固ナシ

(ハ) 緊急執行形態組成基準ハ次ニ依ルコト

A 擔取組合員合計出及年法二〇萬圓ヲ日課トスルコト

B 毎四半期擔取材ノ使用合計五〇萬ヲ日課スルコト

C 生活必需品資材ニ於テソノ擔取合計が高ニテ口頭契約適用ヲ受クルカ

モシタバ迅速上ノ便宜アル範圍タルコト

「プロボク」ノ組織ハ右ノ何レカノ組織基準ニ依ルコト

(四) 緊急執行形態執行組織ノ組成ハ可及的速カニ實行ニ移スコト

註 明

設立ノ趣旨ハ同章ニ依リ詳述シタ目的ヲ達成スルノデアリマシテ、實行の
ニハ

(一) 救済機關等ノ簡便化(後ヲテ緊密ナル連絡化)

(二) 緊急自體ノ人的資源ノ補充

(三) 救済物資ノ簡便化ヲ期スルモノノ區域的集約

以上デアリマス

運送のニ簡單ニ建設セシマス

(四) 運送ニヨリ交通ノ如ク要領ノ必要性が顯著ノ國家的協力ヲ要シテ
方ノ更進ヲ目指シテ建設セラル以上組合ノ指導原理ニヨフサル可カ
ラデアルハ有餘ニテ斯クシタノデアル

(四) 運送銀行形態ヘ適合トノ關係ニ於テ嚆^フ合サレタ自動車ノ如キ一如ノ玩
物ガトレルコウ型^シシタ

但シ其ノ題目ニ亘ツテハ諸議員ニ一任シタノハ本來ガ決定ノ趣ニシ
テハシタ關係上自治性ヲ齎^スシタカラデアル

(四) ニヨリ附カナル如ク銀行形態ハ諸議員等ノ使用人ノ起ラトクモ
唯ダソノ銀行形態ノ責任タケテ共同責任トシタノハ我國法規上ト自己
經濟ニ依ル使用人息後又ハ非關關ニヨル統制上ノ觀察ニ關シテハ徹
底的變^ス特ワレルノミナラスソレヲ範圍ニセンカ自派自派トナルカリ
デアル

(四) 新項參照

(四) (イ) ハ内閣ノ指導原理リ則文化シタノデアル (ロ) ハ國ニヨル指示
ヲ依文化シタノデアル

(四) 運輸ノ要ナシ

(四) 敷定ノ運賃ニヨブテ明ウカデアル

(四) 組合基準ハ大體ヲ示シタノデアル

(四) 其のニハ實行ノ際ニヨリ組合員ノ意見ヲ斟酌シテ次第
具容ニヨリ其ノ短處ニ發立シ實行ニ移スルハ當然デアル



北石資第 號

昭和十七年一月二十四日

貼入

北九州石炭炭礦組合事務所

會員 炭礦 御中

貨物自動車調査ニ關スル件

炭礦用貨物自動車運用ノ打開策ニ付キテハ當組合ニ於テモ種々考案中ニ
成テハ必要有之然レ別紙調査ノ様式ニ依リ來ル二月十日迄ニ當組合ニ必
着スル様報告相成度

調査票

貨物自動車調査票 昭和十七年一月十日現在

北九州石炭炭礦組合事務所 御中

炭種名

調査用	貨物自動車調査票	月十日現在	貨物自動車調査票	炭種名
種類別	調査用	貨物自動車調査票	炭種名	炭種名
普通トナリ				
外運トナリ				
オートモビル				
台				

調査注意

1. 燃料別ニガソリン・重油・石炭・木炭・コークス・その他ノ燃料ニ依リテ現在所有
2. 炭種別ニ普通炭・外運炭・オートモビル炭・その他ノ炭種ニ依リテ現在所有
3. 炭種別ニ普通炭・外運炭・オートモビル炭・その他ノ炭種ニ依リテ現在所有
4. 炭種別ニ普通炭・外運炭・オートモビル炭・その他ノ炭種ニ依リテ現在所有
5. 炭種別ニ普通炭・外運炭・オートモビル炭・その他ノ炭種ニ依リテ現在所有
6. 炭種別ニ普通炭・外運炭・オートモビル炭・その他ノ炭種ニ依リテ現在所有

